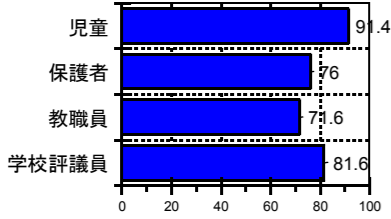


平成29年度 学校評価総括表 課題と改善策

「確かな学力」の育成

※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

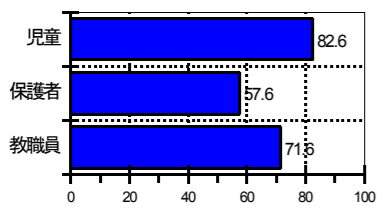
わかる授業 総合評価: A (78.9)



- 学習中、「本時のめあて」を掲示し「学習の振り返り」の時間を確保することに取り組んだ。
- 算数科を中心に、ノート指導に取り組み、自力解決の記載を大切にしよう努めた。
- 全ての学年でチームティーチングを実施し、個々がわかる楽しさを実感できる授業づくりについて実践追究した。

☆子どもたちの個々の能力への対応がまだ十分ではなく、授業展開の工夫がさらに必要である。
☆「学力サポート事業」で得た成果をもとに、これまで見直し取り組んできたことに改善を加え、取組を継続していく。

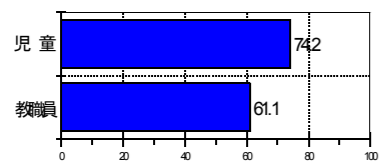
基礎・基本の定着 総合評価: A (73.6)



- 今年度も、本校独自に行っている「漢字検定・計算検定」を継続して実施した。合格者については、年度末に表彰した。
- 朝の活動時間で行っている「ぐんぐんタイム」で、漢字や計算のスキル学習や、4～6年生では「全国学力学習状況調査」、「徳島県ステップアップテスト」の解答スキルの向上に取り組んだ。

☆基礎基本の定着のために、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。
☆朝の活動時間で行っている「ぐんぐんタイム」の有効な手立てを工夫していく。

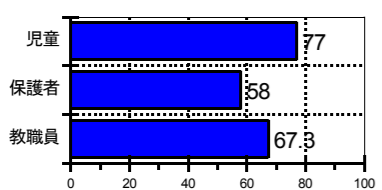
聴く・話す・表現力 総合評価: B (67.7)



- ペアやグループ学習を取り入れ、伝え合い、教え合う学習のために、ホワイトボードやICT機器の活用を継続的に行った。
- アクティブラーニングを意識した授業に取り組み、児童が主体的に取り組む方法を共通理解しながら行った。

☆伝え合い、教え合う学習のために、アクティブラーニングを意識する機会を増やし、自分の考えを伝え合うことができる場の提供を図っていく。
☆コーチングの手法を模索し、児童のコミュニケーション能力の向上に務める。

学習習慣 総合評価: B (70.5)



- 家庭学習強化月間として、学期に1回、学習時間チェックを行い、「学年×10分以上」の目標達成者には表彰した。
- 学校全体で読書タイムの時間を確保し、読書習慣の確立を図った。また、学期末には多読児童の表彰を行い、読書の推進をした。

○家庭学習習慣の育成として、家庭学習の手引きを配付し、学年だより等で保護者への啓発を図った。
☆全校で取り組んでいる「学習規律」の徹底がまだ不十分であり、引き続き徹底して取り組む必要がある。
☆算数科ノート、自主勉強ノートの指導充実を、さらに工夫していく。
☆読書の習慣化を行う手立ての工夫改善を進めていく。

(A: 73.3以上 B: 73.3未満~66.7以上 C: 66.7未満~50.0以上 D: 50.0未満)

学校教育目標

故郷を愛し、主体的に学び、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる
—創造と信頼と協働による活力ある学校づくり—

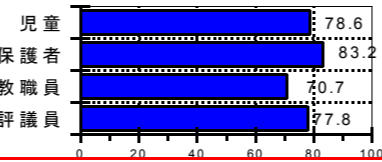
めざす子ども像

- か…感謝の心をもつ子
- も…目標(めあて)をもち、自ら学ぶ子
- な…仲よくし、相手の立場になって考える子
- の…伸び伸びと、明るく元気な子
- こ…根気強く、最後までやり抜く子



「健やかな体」の育成

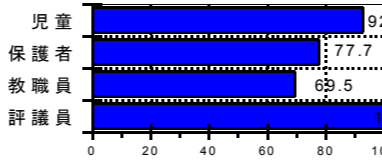
健康・体力 総合評価: A (77.1)



- 児童の「元気いっぱい運動に取り組んでいる」という回答指標値は、昨年同様80を越えることができた。
- 朝ごはんを食べて登校している児童は、2年連続減少し、今年度は指標値90を下回る結果となった。
- 本校の課題である「給食を好き嫌いしたり、残したりしないで食べている」の割合が、昨年度より3.7ポイント上回ったが、指標値71.7で依然としてやや低い。
- 朝食や睡眠時間等の重要性について、保健だより等で保護者に啓発した。
- 市や県のスポーツ関係行事に焦点を当て、スポーツ教室や子どもの体力向上支援事業、冬季には体力作りマラソン運動を業間に設定するなど、本校の課題である体力の向上をめざし、年間をとおして計画的に取り組んだ。
- ☆体力作りについては、結果も始まっているが、来年度も引き続き、スポーツ教室の実施や冬季の体力作りマラソン運動など、年間を通して体力作りを進めていく。
- ☆健康教育の一環として給食指導や食育を充実させ、望ましい食習慣と食に関する実践力を養い、健康によい食事の取り方を身に付けさせていく。

安全・安心な学校づくり

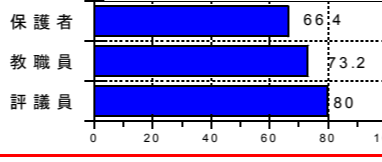
安全・安心 総合評価: A (84.1)



- 防犯教室や交通安全教室、集団下校訓練、避難訓練等、子どもの安全を守るための行事を実施し、防犯・防災意識の高揚に努めた。
- ☆教職員における「報告・連絡・相談」の徹底と初期対応に最善を尽くすことで、危機管理の意識の強化を図っていく。
- ☆多様な防犯・防災訓練を実施し、PDC Aサイクルに基づいたより実効性のある危機管理マニュアルの作成を図る。

保護者・地域との連携

PTA活動・情報提供・環境づくり 総合評価: B (72.5)



- ☆保護者との気軽に相談しやすい雰囲気づくりに努め、積極的なコミュニケーションを図る。
- ☆PTA本部役員や常任委員会と対策を検討し、魅力ある懇談会や興味をもてるPTA行事が開催できるように前向きに取り組んでいく。
- ☆公民館やまちづくり協議会、青少年健全育成協議会、加同協などの地域団体や地域組織と連携をさらに密にし、地域コミュニティーを充実していく。

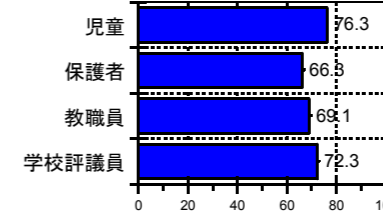
信頼される学校づくりのために

- 教職員一人一人の意欲が高まるような協働体制の醸成を図り、全教職員が学校経営に参画できる組織として、「チームで対応する力」の育成に取り組んでいく。
- 授業力を高めるために、「学び合う集団」として機能するように、教職員の力量形成を促す研修の機会を積極的に設けていく。
- 保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら、児童の実態にあった教育を推進していく。
- 情報や要望の収集に努めるとともに、学校の教育方針や活動を積極的に発信していく。

「豊かな心」の育成

※○が評価所見, ☆が次年度への改善策

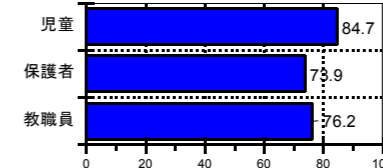
あいさつ・言葉遣い 総合評価: B (70.8)



- 各学級において「ふわっと言葉」の奨励を図り、相手の気持ちや立場を考えた言葉かけができるように指導してきた。
- 代表委員会で「あいさつ運動」に取り組み、全校児童に働きかけた。
- 毎月、朝会にて「キラリさん紹介」を行い、全校児童へ良い行いの働きかけをした。
- ☆「あいさつ運動」がさらに進むよう支援するとともに、教職員自らがあいさつを率先することによって、交通立哨や地域

の方へ積極的にあいさつができるよう取り組んでいく。
☆言葉づかいについては、各学級における日常指導での徹底を図りながら、全ての教育活動における言語活動の充実を進めていくことで対応を図っていく。

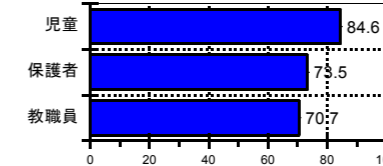
いじめのない温かな人間関係 総合評価: A (79.5)



- 児童の「学校へ行くのが楽しい」という回答指標値が82.2となり、昨年度を6.8ポイント上回った。
- 保護者の「学校はいじめのない明るい学級づくりに取り組んでいる」という指標値が、昨年度より10.6ポイント上回ったものの、66.5と依然として低い水準にあり、「いじめ防止」に対する積極的な取組

への期待感が伺える。
☆いじめが起きないように全校的指導体制を整え取り組み、教育活動全体をとおして温かい人間関係づくりに努め、自己肯定感を高揚する手立てを図っていく。
☆いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた継続的な取組をさらに充実させ、家庭と連携を図りながら、いじめ解消に向けた指導の徹底を図っていく。
☆一人一人の児童理解を積極的に図り、適切な声かけを行うことができるよう、信頼関係や好ましい人間関係づくりに努力していく。
☆教職員自身のコミュニケーション能力を校内研修等で高め、対話のキャッチボールができるよう取り組んでいく。

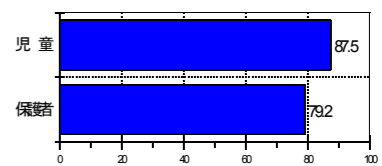
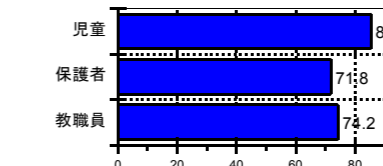
人権教育・特別支援教育 総合評価: A (73.5)



- 今年度、市村人権教育研究会の会場校となり、全教職員で研究主題の共通理解や授業実践について討議するなどの研修を進めた。
- 児童一人一人の状況や能力に応じた個別の指導体制(内容及び方法)の改善を図り、特別支援教育のさらなる実践を推進していく必要がある。

☆差別の現実から学び、その思いや願いに深く共感し、系統性を重視した“地域から学ぶ”という人権問題学習の充実を図っていく。
☆児童一人一人を大切にしながら対応しようとする、教職員自身の人権意識を向上させるための研修を深めていく。
☆児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援について、定期的にまた必要に応じて校内委員会を実施し、共通理解のもと学校全体で取り組んでいく。

生徒指導 総合評価: A (77.1) 家庭生活 総合評価: A (83.3)



☆定期的に、また必要に応じて生徒指導情報交換会等の機会をもち、全教職員で共通理解を図ること、教師間の連携を密にした早期発見・早期対応にあたる。
☆基本的な生活習慣については、学年の発達段階に応じた指導を継続し、家庭との連携を密にして根気強く取り組んでいく。
☆保護者や地域、関係機関と連携を図り、子どもたちの生活の様子についての情報を迅速に把握、共有できるようにしていく。

☆家庭との連携を密に取りながら、担任だけでなく、全教職員でサポートできる支援体制づくりをさらに図っていく。